

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 2 区分
【発行日】令和 4 年 11 月 1 日(2022.11.1)

【公開番号】特開 2021-71533(P2021-71533A)
【公開日】令和 3 年 5 月 6 日(2021.5.6)
【年通号数】公開・登録公報 2021-021
【出願番号】特願 2019-196569(P2019-196569)
【国際特許分類】

G 0 3 G 1 5 / 0 8 (2 0 0 6 . 0 1)

10

G 0 3 G 2 1 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)

【 F I 】

G 0 3 G 1 5 / 0 8 2 2 2

G 0 3 G 2 1 / 0 0 5 1 0

G 0 3 G 2 1 / 0 0 3 7 0

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 10 月 24 日(2022.10.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

20

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

像担持体と、

トナーとキャリアを含む現像剤を収容し且つ現像剤の循環経路を形成する現像容器と、
前記像担持体に形成された静電潜像を現像する現像位置にトナーを担持搬送する現像スリ
ープと、前記現像スリープに対向して配置され且つ前記循環経路から供給された現像剤を
担持搬送し且つ前記現像スリープにトナーのみを供給する供給スリープと、前記現像スリ
ープから落下するトナーを受けるトナー受け部材と、を有する現像装置と、

30

前記トナー受け部材を振動させる振動手段と、

前記振動手段を制御して前記トナー受け部材を振動させる振動モードを実行する制御手
段と、

を備え、

前記現像容器の内部の絶対水分量が第 1 値である場合に、前記制御手段によって実行さ
れる前記振動モードの実行間隔よりも、前記現像容器の内部の絶対水分量が前記第 1 値よ
りも大きい第 2 値である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行
間隔の方が短い、

ことを特徴とする画像形成装置。

40

【請求項 2】

前記現像容器の内部の相対湿度を検知する検知手段を更に備え、

前記現像容器の内部の温度が所定の温度であり、且つ、前記検知手段によって検知され
た前記相対湿度が第 1 の湿度である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モ
ードの実行間隔よりも、前記現像容器の内部の温度が前記所定の温度であり、且つ、前記
検知手段によって検知された前記相対湿度が前記第 1 の湿度よりも高い第 2 の湿度である
場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔の方が短い、

ことを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

【請求項 3】

前記現像容器の内部の温度を検知する検知手段を更に備え、

50

前記検知手段によって検知された前記温度が第 1 の温度であり、且つ、前記現像容器の内部の相対湿度が所定の湿度である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔よりも、前記検知手段によって検知された前記温度が前記第 1 の温度よりも高い第 2 の温度であり、且つ、前記現像容器の内部の相対湿度が前記所定の湿度である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔の方が短い、
ことを特徴とする請求項 1 に記載の画像形成装置。

【請求項 4】

像担持体と、
トナーとキャリアを含む現像剤を収容する現像容器と、前記像担持体に形成された静電潜像を現像するために前記現像剤を担持搬送する現像剤担持体と、を有する現像装置と、
前記現像装置を振動させる振動手段と、
前記振動手段を制御して前記現像装置を振動させる振動モードを実行する制御手段と、
を備え、
前記現像容器の内部の絶対水分量が第 1 値である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔よりも、前記現像容器の内部の絶対水分量が前記第 1 値よりも大きい第 2 値である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔の方が短い、
ことを特徴とする画像形成装置。

10

【請求項 5】

前記現像容器の内部の相対湿度を検知する検知手段を更に備え、
前記現像容器の内部の温度が所定の温度であり、且つ、前記検知手段によって検知された前記相対湿度が第 1 の湿度である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔よりも、前記現像容器の内部の温度が前記所定の温度であり、且つ、前記検知手段によって検知された前記相対湿度が前記第 1 の湿度よりも高い第 2 の湿度である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔の方が短い、
ことを特徴とする請求項 4 に記載の画像形成装置。

20

【請求項 6】

前記現像容器の内部の温度を検知する検知手段を更に備え、
前記検知手段によって検知された前記温度が第 1 の温度であり、且つ、前記現像容器の内部の相対湿度が所定の湿度である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔よりも、前記検知手段によって検知された前記温度が前記第 1 の温度よりも高い第 2 の温度であり、且つ、前記現像容器の内部の相対湿度が前記所定の湿度である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔の方が短い、
ことを特徴とする請求項 4 に記載の画像形成装置。

30

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

40

本発明は、振動モードの実行間隔を適正化できる画像形成装置を提供することを目的とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

本発明の画像形成装置は、像担持体と、トナーとキャリアを含む現像剤を収容し且つ現像剤の循環経路を形成する現像容器と、前記像担持体に形成された静電潜像を現像する現

50

像位置にトナーを担持搬送する現像スリーブと、前記現像スリーブに対向して配置され且つ前記循環経路から供給された現像剤を担持搬送し且つ前記現像スリーブにトナーのみを供給する供給スリーブと、前記現像スリーブから落下するトナーを受けるトナー受け部材と、を有する現像装置と、前記トナー受け部材を振動させる振動手段と、前記振動手段を制御して前記トナー受け部材を振動させる振動モードを実行する制御手段と、を備え、前記現像容器の内部の絶対水分量が第1値である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔よりも、前記現像容器の内部の絶対水分量が前記第1値よりも大きい第2値である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔の方が短いことを特徴とする。

また、本発明の画像形成装置は、像担持体と、トナーとキャリアを含む現像剤を収容する現像容器と、前記像担持体に形成された静電潜像を現像するために前記現像剤を担持搬送する現像剤担持体と、を有する現像装置と、前記現像装置を振動させる振動手段と、前記振動手段を制御して前記現像装置を振動させる振動モードを実行する制御手段と、を備え、前記現像容器の内部の絶対水分量が第1値である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔よりも、前記現像容器の内部の絶対水分量が前記第1値よりも大きい第2値である場合に、前記制御手段によって実行される前記振動モードの実行間隔の方が短いことを特徴とする。

10

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明によれば、振動モードの実行間隔を適正化できる。

30

40

50